

令和2年度

法人運営事業報告

社会福祉法人

わらしべ舎

令和2年度 わらしべ舎 事業報告

1. 新施設開設に向けた取組について

新施設（名称「わらしべ舎羽黒台工房」となる）の開設に向けた取組について、理事会（5月）、評議員会（6月）にて前年度からの取組経過報告し、国から社会福祉施設等施設整備費補助金の内示（6月26日）を受け、仙台市と打ち合わせ（7月）、設計事務所と話し合い、仙台市立ち合いのもと建設業者の一般競争入札（8月）の実施（建設業者は株式会社ジャパンビルドに決定）、建設工事の地鎮祭（9月）、建設工事が着工（10月）してからは毎月2回（10月～2月）工事の進捗状況の確認等の打ち合わせ会が行われ、工事期間中は事故やトラブルもなく終了し、建物の引き渡し（3月17日）があり、近隣住民への内覧会（3月29日）を実施し、4月1日に利用者19名、職員16名でスタートした。

また、羽黒台工房にて行う事業内容について、施設内に担当チームを組織して検討するとともに、職員には必要となる研修（アート関係等）を受けさせた。職員採用（看護師は前倒しで採用）についても実施し必要な人員の確保に努めた。

なお、羽黒台の土地活用について、建設工事に支障とならない場所に設けた畑にてカレー班で使用する「ニンニク」を作付けし、収穫をした。畑については引き続き利用者の生活介護メニューの一つとして活用していく。

2. 法人設立30周年記念事業の実施

令和2年11月の開催に向けて招待者名簿整理や記念事業の内容について幹部会で話し合いを重ねてきたが、新型コロナウイルスの蔓延と終息が見えない状況の中で予防対策を講じて開催をしても、参加者の安心と安全を確保することが難しいと判断し、今年度の開催を中止し、来年度に開催を延期することにした。

3. 安定的な経営とガバナンス強化について

前年度は黒字決算であったが、上半期は羽黒台工房建設に関わる支出や9月末で終了した仙台市の補助金事業の廃止に伴う予算減、新型コロナウイルスによる活動自粛のため各班の販売の収入減による利用者工賃への影響などが見られるなか、毎月会計事務所から指導を受け、経営の安定に向けて取り組んできた。

事故防止の徹底については、昨年度から継続した取組を行っている利用者の怪我への対応と補償について、保険会社と連携して対応してきたが、家族がADRでの解決を申込み、3月には解決をすするに至った。また、事故やヒヤリハットについては事故対策委員会で原因分析や防止対策を講じながら、職員会議での報告を通して職員間で共有し、事故防止に努めた。

4. 人材育成と職場環境の整備について

人材育成を目的とした職員研修は、新型コロナウイルスの影響で予定されていた外部の研修会が中止になったこともあり、計画通りに参加させることはできなかったが、職

員が講師となって内部研修を実施（5回、利用者支援、自閉症について等）することで、それぞれ個々のスキルアップを図った。職場環境づくりについては、班ごとのミーティングを大事にして風通しの良い環境づくりに努めた。

5. 地域及び他団体との連携について

地域との連携については、新型コロナウイルスの影響で予定されていた地域主催の行事への参加見送りなどはあったが、「天沼活動」は継続して取り組んできた。

仙台市知的障害者関係団体連絡協議会（略称 仙団協）へは、理事長が役員になっており、新型コロナウイルスの関係で役員会や総会などが中止となり、仙団協事務局よりメールで送られてくる各種の情報について共有した。なお、毎年行っている仙台市への要望書の提出（9月4日）を行い。回答が（9月14日）あった。

また、仙台市グループホーム連絡協議会にも加入し、グループホームで新型コロナウイルス感染者が出た場合の対応、体制の協力等を盛り込んだ要望書を仙台市へ提出（9月）した。

○会議開催状況

①理事会

第1回 理事会	5月30日(土)	わらしべ舎 食堂	理事6 監事2 事務局1	前年度法人・各事業所の事業報告、決算報告 他
第2回 理事会	6月30日(木)	書面理事会		福祉医療機構への借入れについて
第3回 理事会	8月22日(土)	西多賀市民センター	理事6 監事2 事務局1	建設業者決定、杭の撤去について 他
第4回 理事会	10月3日(土)	西多賀市民センター	理事6 監事2 事務局1	経理規程の改正、羽黒台の埋設杭について 他
第5回 理事会	11月14日(土)	西多賀市民センター	理事6 監事2 事務局1	上半期報告 補正予算 他
第6回 理事会	3月13日(土)	西多賀市民センター	理事5 監事2 事務局1	次年度の事業計画及び予算案 他

②評議員会

第1回 評議員会	6月11日(木)	わらしべ舎 食堂	評議員7 理事3 事務局1	前年度法人・各事業所の事業報告、決算報告 他
第2回 評議員会	11月28日(土)	西多賀市民センター	評議員7 理事3 事務局1	上半期事業報告 補正予算 他
第3回 評議員会	3月25日(木)	わらしべ舎 食堂	評議員7 理事3 事務局1	次年度事業計画・予算(案) 他

③監査

監事監査	5月21日(木)	わらしべ舎 食堂	監事2、理事長 業務執行理事 施設長、事務長	前年度の事業及び予算についての監査
------	----------	-------------	------------------------------	-------------------

④第三者委員会

第三者委員会	7月31日(水)	わらしべ舎 食堂	第三者委員3 理事長、施設長、事務長、担当者	前年度の事故・苦情報告等について 他
--------	----------	-------------	---------------------------	--------------------

⑤経営者会議

4月～ 3月	随時開催	理事長、業務執行理事 施設長、事務長	施設運営・法人運営における協議事項、毎月の予算及び施設運営状況報告 他
-----------	------	-----------------------	-------------------------------------

令和2年度
事業報告

- *多機能型事業所 わらしべ舎西多賀工房（生活介護・就労B型）
- *共同生活援助事業（グループホームわらしべ舎）
- *仙台市障害者家族等推進事業（ひだまりステイ）

社会福祉法人

わらしべ舎

多機能型事業所わらしべ舎西多賀工房

- *18年目を迎えた西多賀工房では建物の老朽化、利用者の人数・障害特性等を踏まえて、作業場の確保・環境整備が急務な課題となっていた。必要度の高い環境整備から行い、今年度は作業・休息スペースを増設し、またそのことにより相談室を確保することを行った。
- *羽黒台工房が開所するにあたり、支援学校から入所を希望する生徒・他施設利用者の実習の受入れを例年の5倍、20人程行った。
- *羽黒台工房が開所するにあたって、異動を希望する本人・家族と面談を重ね、最終的に8名の利用者が羽黒台工房へ異動することになった。

<生活介護事業報告>

【本年度重点目標】

- ① 利用者の作業能力の向上と個々の活動の幅を広げる
- ② 余暇活動の充実と多様化を図る
- ③ 売上向上に向けた商品開発と委託作業の拡大を図る
- ④ 支援員間の連携の強化と支援の質の向上及び育成を図る

【実施報告】

- ① 作業、休息スペースの拡充、また利用者が分散して作業・活動が行えるように環境を整えることで、利用者にとって作業の幅が広がり、楽しみをもって取り組むことに繋がった。
- ② 休憩場所を増やすことで、個々の要望に合わせ、自由に休憩時間を過ごす事が出来るようになった。各部屋を行き来しながら、動画を見る、持参したもの（カード、トランプ）でボランティアさんや他班の利用者と共に遊ぶ、また職員が各部屋にいて、日々の悩み事や自宅での出来事などを話す等、各々が楽しんでいる様子が多くみられるようになった。
- ③
 - ・手工芸→刺し子を活用した商品（マスク・トートバック・ポーチなど）
 - ・リサイクル→通年、缶つぶし作業に力を入れた事で、多くの利用者が活躍する場が出来たと共に、稼働率が上り売上に繋がった。缶回収場所を広げた。（ファミリーマート2店舗：西の平店、西多賀4丁目店、セブンイレブン西多賀店）
 - ・生ごみ堆肥→堆肥の有無のプランターでゴーヤと朝顔を栽培。生育状況から堆肥の効果を確認した。販売に必要な成分分析検査を依頼する業者を決定した。販売に繋げていく。
 - ・プリント商品→・新製品として利用者のデザインを採用した長袖Tシャツ販売したことで冬場の売り上げに繋がった。
 - ・印刷の受注は、個人から大口まで受け付け、対応することができた。
- ④
 - ・ケース検討を実施することで、利用者の情緒面や特性（こだわり等）の変化、身体の変化（年齢や季節による体調の変化）を職員一人一人が再確認し、支援につなげることができた。
 - ・チューター制度により自分を振り返る事で、今後の課題や取り組んでいく事も明確になった。また、個別で話す機会が出来た事で、現場の小さな疑問や悩みなども話せる場ができ、支援員が不安なく仕事出来る環境が出来た。指導職員にとっても、自らの仕事の振り返りとなり、より良い仕事をするためにどうするかということを常に意識し、積極的に意見を出し合えるようになった。

<就労継続支援B型事業報告>

【本年度重点目標】

- ① 一人ひとりの個別ニーズに適した作業や生活の支援を充実化させる。
- ② 工賃アップにむけたサービス内容の向上と広報活動の強化を行う
- ③ 積極的に地域貢献活動をおこなう
- ④ 食品や製品の衛生管理を徹底する

【実施報告】

- ① ・利用者と支援員の二者面談を年2回行う。ニーズ把握やアセスメントをはかることによって、本人が期待を持って取り組める個別支援計画の提案や日中活動のケアを実施することができた。
 - ・パソコン入力や在庫のチェック、油の回収作業の同行など、それぞれの能力を生かした作業や役割を作ることが出来た。
- ② ・コロナウィルスの影響により、店舗における集客ダウン、キッチンカーの休業など、収益に大きな打撃を与えた。対策として、テイクアウト配達サービスを開始して、市役所や区役所にて定期的に注文をいただき収益につなげた。また、店舗前にテイクアウトの案内POPを目立つように掲示することでテイクアウトのオーダーが増えた。
 - ・キーマカレー商品化にむけて専用の充填機（ヤマト福祉財団より助成）を導入して、来年度の発売に向けた準備が進んでいる。
 - ・固形石けんセットのパッケージを一新することにより、前年度より固形石けんの売上げ向上につながった。
- ③ 花壇の草取りやゴミ拾いを定期的に行うことにより、地域住民にとって景観の良い環境になった。
- ④ 衛生講習会を年3回（衛生全般、食中毒、ノロウイルス）実施した。一人ひとりに問いかけるクイズ形式で学習することで、作業中は意識して行動する様子が見られるようになった。

【利用実績】

●わらしべ舎 西多賀工房 R2年度利用実績

(R2年4月～R3年3月)

	稼働日数	生活介護事業			就労継続支援B型事業						
		エコ班			カレー班				石けん班		
		在籍者数	利用延べ日数	利用率	在籍者数	利用延べ日数	利用率	土・日・祝日・出勤	在籍者数	利用延べ日数	利用率
4月	21	24	487	96.6%	13	250	91.5%	3人のべ3回	12	245	97.2%
5月	20	24	456	95.0%	13	190	73.1%	0人のべ0回	12	197	82.1%
6月	21	24	500	99.2%	13	268	98.1%	4人のべ4回	12	251	99.6%
7月	21	24	498	98.8%	13	268	98.1%	4人のべ4回	12	250	99.2%
8月	18	24	418	96.7%	13	226	96.5%	3人のべ3回	12	211	97.6%
9月	21	24	504	99.4%	13	260	95.2%	3人のべ3回	12	249	98.8%
10月	23	24	550	99.6%	13	288	96.3%	3人のべ3回	12	272	98.5%
11月	19	24	426	93.4%	13	240	97.1%	4人のべ4回	12	225	98.6%
12月	21	24	491	97.4%	13	262	95.9%	5人のべ6回	12	239	94.8%
1月	20	24	466	97.1%	13	247	95.0%	4人のべ4回	12	238	99.1%
2月	18	24	424	98.1%	13	224	95.7%	4人のべ4回	12	212	98.1%
3月	21	24	498	98.8%	13	261	95.6%	4人のべ4回	12	248	98.4%
合計	244	24	5718	97.6%	13	2984	94.1%	41人のべ38回	12	2837	96.8%

*R2年度 利用実績 96.5% (昨年度 97.1%)

*稼働日数 244日 (昨年度248日)

共同生活援助事業（グループホームわらしべ舎）

入居者家族の高齢化に伴い、家族自身の体調・体力の衰え等が懸念される親御さんが増えており、週末の帰省が難しくなり、ホーム利用が必要となっている入居者が増えている。また、通院支援、財産管理、生活していく上で必要な手続き等、家族に代わってグループホームが担うことも併せて増えている。その現状を支えていくための支援体制は支援者の中心である世話人が高齢者（65歳以上）が占めていることもあり、今後の支援体制については大きな課題となっている。

【本年度重点目標】

- ① 余暇の充実を行う
- ② 各ホームのサービス内容確立を行う
- ③ グループホームの稼働率を上げる
- ④ 支援者のスキルアップを行う
- ⑤ 緊急支援体制の確立を行う

【実施報告】

- ① ・記念日等での特別食の提供、誕生日のお祝いケーキ、クリスマス会は継続して実施した。
・コロナウィルスの影響による外出自粛で移動支援サービスが休みだった期間の約3か月は、その代替えとして、月曜日の昼食にデリバリーを取り入れる事により利用者の満足を図った
- ② ・休日に帰省ができない入居者へ、近所のコンビニや床屋、ショッピングセンター等へ出かける機会を持ち、衣類等の購入や外食等の日常生活に繋がる支援を行った。
- ③ ・ホーム入居3年経過した入居者に向けて、グループホームへ生活を少しずつ移行できるように、本人と家族と話し合いを重ねながら、働きかけて、宿泊日数を少しずつ増加へと繋げた。
・入居者家族の高齢化に伴い、家族自身の体調・体力の衰え等が懸念される親御さんが増えており、週末の帰省が難しくなり、ホーム利用が必要となっている入居者が増えている。
- ④ ・法人研修や外部研修の機会があれば参加の呼びかけを行い、勤務に影響の無い世話人が参加する事が出来た。また、「仙台市グループホーム連絡会」の研修会へ参加し、管理者やサビ管にとって、他事業所との繋がりを持つ場ともなっている。
・県感染対策認定看護師によるグループホーム向け研修を実施し、現場の感染予防対策や今後のBCPマニュアル策定に繋げている。
- ⑤ ・通所職員の協力も得ながら、必要な通院支援（緊急、定期）をサビ管と管理者が行い、通院支援回数は前年度よりも増加している。
・夜間体調不良者等への対応アドバイスを“「#7119」おとな救急電話相談”を活用し、より確実、安全な対処に努めた。

●わらしべ舎 各グループホーム 宿泊実績

(R 2 年 4 月 ~ R 3 年 3 月)

項目 月	総宿 泊数	山田北前 (女性・4)	総宿 泊数	金剛沢 (男性・4)	総宿 泊数	西の平 (女性・10)	総宿 泊数	西の平 (男性・10)
4月	120	70	120	71	300	216	300	194
5月	124	57	124	60	310	206	310	182
6月	120	93	120	77	300	232	300	223
7月	124	96	124	80	310	240	310	216
8月	124	70	124	66	310	220	310	176
9月	120	77	120	74	300	207	300	231
10月	124	82	124	81	310	225	310	217
11月	120	83	120	73	300	223	300	168
12月	124	85	124	80	310	233	310	208
1月	124	95	124	79	310	227	310	206
2月	112	84	112	72	280	215	280	203
3月	124	94	124	91	310	246	310	221
合計	1460	986	1460	904	3650	2690	3650	2445

* R 2 . 4 ~ R 3 . 3 月 GHにおける宿泊実績

総宿泊数	宿泊実数	率
10,220	7,025	68.73% (昨年度 62.04%)

○全体比較

	総 宿 泊 数	実 宿 泊 数	率
今年度	10,220	7,025	68.73%
昨年度	10,248	6,358	62.04%

*グループホーム全体で667泊(昨年度より6.69%)増えている。

○各グループホームの昨年度との比較

ホーム名	総 宿 泊 数		実 宿 泊 数		率	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
山田北前(女)	1,460	1,464	986	855	67.5%	58.40%
金剛沢(男)	1,460	1,464	904	763	61.9%	52.11%
西の平(女)	3,650	3,660	2,690	2,515	73.6%	68.71%
西の平(男)	3,650	3,660	2,445	2,225	66.9%	60.79%
計	10,220	10,248	7,025	6,358	68.7%	62.04%

*全てのホームで宿泊数が昨年度に比べて増加している。

仙台市障害者家族支援等推進事業（ひだまりステイ）

（移行後：短期入所&日中一時支援事業）

令和2年9月仙台市障害者家族支援等推進（レスパイト）事業が廃止されたことに伴い、10月より短期入所と日中一時支援事業へ移行した。事業移行したことにより事業の機能や内容に関して、外出介護事業と自宅介護事業部分を縮小することになった。しかし、外出介護事業と自宅介護事業は以前より利用も少なく、移行後も利用者への影響もほとんどなかったことから、本年度の方針と計画は移行後も変更せず継続して総括する。

【本年度重点目標】

- ①緊急利用への対応と強化
- ②介護人材の育成と確保
- ③年間2500時間の実績

【実施報告】

①当事業所は専任職員2名（事業移行後は1名）の体制で行っているため、以前より緊急利用への対応が難しいケースがあった。本年度は他事業所との積極的な連携をとりながらその協力体制をつくり、緊急利用受入の分担等の対応を図った。

また、随時、利用者の家庭の情報収集を行い、それぞれの家庭での緊急要因を緩和するような利用方法（例えば計画的な利用を行い家庭生活に余裕をつくるなど）を各利用者家族に提案しながら利用のコーディネートを行った。

②今年度は限られた支援体制のため、人材の育成と確保については次年度への課題となる。

③年間の実績目標「月平均20日：2500時間の利用」に対し、事業移行までの半年間で「月平均18.8日：1040時間」の実績であった。本年度は新型コロナウイルス感染に伴う利用控えや利用キャンセルも相次いだり、概ね目標に近づけた実績を積み上げられた。事業移行時にも利用受入のブランクも発生させることなく順調な受入ができ、事業移行後も「月平均18.45日」と移行前と同等水準で利用受入ができている。利用控えや利用キャンセルが相次ぐ中で、その対処として一部の利用者の利用拡大を図った。また、本年度は事業移行後、新たに2名の新規利用契約を行っている。

	事業移行前（～9月）	事業移行後（10月～3月）
月平均利用日数	18.8日	18.45日
総利用時間	1040時間	1035時間

契約利用者数	33人
--------	-----